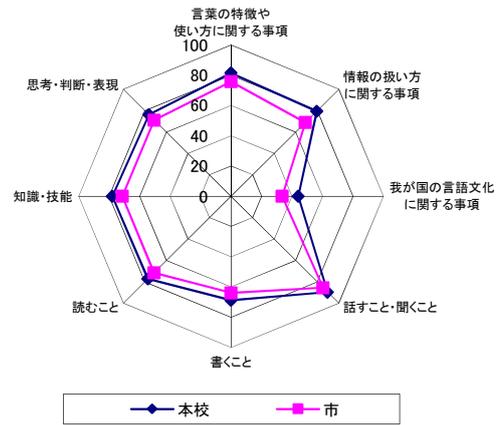


# 宇都宮市立富士見小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	81.5	75.8	77.5
	情報の扱いに関する事項	79.6	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	44.1	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	89.6	85.5	86.5
	書くこと	68.8	63.9	65.8
	読むこと	77.1	71.6	69.5
観点別	知識・技能	77.9	71.3	72.9
	思考・判断・表現	76.3	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

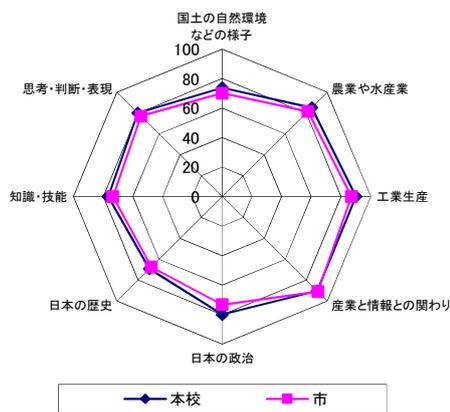
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○本領域の平均正答率は81.5%で、市の正答率を5.7ポイント上回った。 ○「第5, 6年に配当されている漢字を正しく書いている」の平均正答率は、全て市の正答率を上回っている。 ●「文と文との接続の関係を理解している」の平均正答率は、市の平均正答率を上回っているものの、51.6%にとどまっている。	・AIDドリルや朝の学習の時間を活用し、繰り返し練習を継続させるとともに、文章の中で正しく漢字を使うことができるように指導していく。 ・文章の構成を接続語を意識しながら読み取らせるとともに、正しい接続語を使って作文できるように指導していく。
情報の扱いに関する事項	○本領域の平均正答率は79.6%で市の正答率を10.5ポイント上回った。 ○「原因と結果など情報と情報との関係について理解している」の平均正答率は79.6%で市の平均正答率を10.5ポイント上回った。	・国語だけではなく、社会や総合的な学習など複数の教科を横断して、資料から必要な情報を読み取る力を身に付けさせていく。 ・得た情報を整理し、要点をまとめる学習にも取り組み、情報を的確に活用する力を身に付けさせていく。
我が国の言語文化に関する事項	○本領域の平均正答率は44.1%で、市の正答率を10.6ポイント上回った。 ○「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している」の平均正答率は、市の平均正答率を10.6ポイント上回ったが、44.1%と低い。	・日本語への関心を深めさせるとともに、諸外国との関わりにも興味をもたせ、和語、漢語、外来語のもつ特徴を理解し、適切に使い分ける力を身に付けさせていくために、系統的な学習が特に必要になるので、各学年の指導を充実させていく。
話すこと・聞くこと	○本領域の平均正答率は89.6%で、市の正答率を4.1ポイント上回った。 ○「話の内容を捉えている」の正答率は100%で、市の平均正答率を2.8ポイント上回った。 ●「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている」の正答率は75.3%で、5.5ポイント上回っているものの、他の設問よりも正答率が低くなった。	・話し合い活動では、話し手の意図を汲み取り、自身の課題解決に直結する質問ができるよう指導していく。 ・「何のために聞くのか」という課題意識をもたせ、自らの意図をもって話を聞き、必要な情報を選び取る力を養うために、話の目的や要点に注意を向けさせ、内容を的確に捉えられるような聞き方を意識させる場面を増やし、聞く力を身に付けさせていく。
書くこと	○本領域の平均正答率は68.8%で、市の正答率を4.9ポイント上回った。 ○「予想される反論とそれに対する意見を書いている」では、平均正答率が60.2%で、市の平均正答率を9.0ポイント上回った。 ●「目的や意図に応じて、書くことを選び、伝えたいことを明確にしている」では、平均正答率が62.4%で、市の平均正答率を1.7ポイント下回った。	・文章を書く際には、文章の型を事前に考えたり、自分の意見と具体的な事例との関係を考えさせたりするなど、文章構成を工夫して書く活動を繰り返し指導していく。また、文章を書く際、分量や段落の数を指定するなど、制約のある中で文章を書く経験を積み重ねていく。 ・説明文では、筆者の伝えたいことを読み取るために、具体的な事例と主張が表れている抽象的な箇所について見極められるように指導していく。その経験を書く学習でも生かしていけるようにする。
読むこと	○本領域の平均正答率は77.1%で、市の正答率を5.5ポイント上回った。 ○「登場人物の心情について、描写を基に捉えている」では、平均正答率が87.1%で、市の平均正答率を10.1ポイント上回った。 ●「目的に応じて、文章の情報を整理している」では、平均正答率が60.2%で、市の平均正答率を1.5ポイント下回った。	・物語文では、引き続き描写を基に人物の様子や心情を捉えるようにするとともに、感想を交流する活動を多く取り入れ、自分の考えが広げられるようにしていく。 ・説明文では、文章全体の構成を捉え、筆者の主張や意見を正確に読み取ったり、読み取ったことを図で表すなど整理してまとめたりする活動を取り入れていく。その経験を様々な文章を読む際に生かしていけるようにする。

# 宇都宮市立富士見小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	73.8	70.3	66.4
	農業や水産業	85.3	81.6	75.3
	工業生産	90.0	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	90.3	91.0	81.3
	日本の政治	79.8	73.2	75.3
	日本の歴史	69.2	67.4	68.5
観点別	知識・技能	76.7	73.5	72.5
	思考・判断・表現	80.2	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

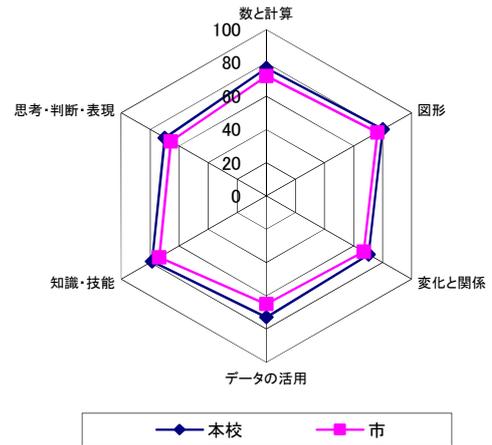
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>○本領域の平均正答率は73.8%で、市の正答率を3.5ポイント上回った。</p> <p>○「赤道について理解している」「季節風について理解している」の平均正答率はそれぞれ78.5%と72%で、市の平均正答率を10.7ポイント、13.5ポイントと大きく上回った。</p> <p>●「人工林の役割を理解している」の正答率は67.7%で、市の平均正答率を12.3ポイント下回った。</p>	<p>・国土周辺の様子について、理解できている一方、森林資源の働きについては、理解が十分でないことが分かる。森林の働きや利用について様々な角度から調べさせ、分かったことを話し合ったり、木材や森林、また林業の未来について考えさせたりすることで、理解を深めていきたい。</p>
農業や水産業	<p>○本領域の平均正答率は85.3%で、市の正答率を3.7ポイント上回った。</p> <p>○「米の品種改良についての理解をもとに、資料を読み取り表現している」の平均正答率は74.2%で市の正答率を7.9ポイント上回った。</p> <p>○「水揚げされた魚の出荷作業における工夫について、資料をもとに判断している」の平均正答率は97.8%で市の平均正答率を2.9ポイント上回った。</p>	<p>・農業や水産業について、概ね理解できていると考えられる。品種改良についての資料から、情報を読み取ってそれを文で表すことが苦手の児童もいることから、米作りを支える人々が行っている品種改良という言葉だけを覚えるのではなく、なぜそれが行われているのかまで理解を深めさせていきたい。</p>
工業生産	<p>○本領域の平均正答率は90.0%で、市の正答率を3ポイント上回った。</p> <p>○「自動車の製造工程について理解している」「安全性の高い自動車づくりについて、資料をもとに考えている」「日本の貿易の変化について、資料をもとに表現している」は、それぞれ91.4%、96.8%、81.7%で市の平均正答率を1.8ポイント、1.8ポイント、3.3ポイント上回った。</p> <p>●「日本の貿易の変化について、資料をもとに表現している」は、他の領域が正答率9割を超えているが81.7%の正答率だった。</p>	<p>・日本の工業全体について市や国の正答率を上回っており、しっかりと知識が定着し理解が深まっていることが分かる。その中でも貿易の変化については、他領域に比べて正答率が低いことから、世界の中の日本を意識した学習をしていく必要がある。</p>
産業と情報との関わり	<p>●本領域の平均正答率は90.3%で、市の正答率を0.7ポイント下回った。</p> <p>○「情報を生かした産業について考えている」の平均正答率は94.6%で市の正答率を1.5ポイント上回った。</p> <p>●「情報の発信と受信の注意点について考えている」の平均正答率は86.0%で、市の平均正答率を3ポイント下回った。</p>	<p>・産業と情報の関わりについて、概ね理解できている一方、生活と情報の関わりについては理解が不十分なことが分かる。総合的な学習の時間や学級活動など、他教科との関連を図りながら、インターネットの情報の正しい活用方法について理解を深めたり、情報リテラシーを高めていけたりするよう支援していきたい。</p>
日本の政治	<p>○本領域の平均正答率は79.8%で、市の正答率を6.6ポイント上回った。</p> <p>○本領域のすべての設問において、市の正答率を上回っている。</p> <p>○「日本国憲法の原則である基本的人権の尊重について理解している」の平均正答率は82.8%で市の平均正答率を14.0ポイント上回った。</p>	<p>・日本国憲法の仕組みや、法律や税に関する知識について概ね理解している。これからも継続して教科書や資料集を併せた指導を行っていくとともに、生活と政治との関わりについて実感をもって理解を深めていきたい。</p>
日本の歴史	<p>○本領域の平均正答率は69.2%で、市の正答率を1.8ポイント上回った。</p> <p>○「カナ文字について理解している。」の平均正答率は73.0%で市の正答率を4.4ポイント上回った。</p> <p>○「織田信長の業績について理解している。」の平均正答率は73.1%で市の平均正答率を4.4ポイント上回った。</p>	<p>・縄文時代から江戸時代までの出来事や、人物についての業績、江戸時代の海外諸国との交易や外交について概ね理解をしている。引き続き資料集などを用いて理解できるようにさせたい。</p>

# 宇都宮市立富士見小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	76.8	72.1	74.6
	図形	80.2	76.5	76.1
	変化と関係	70.3	67.1	59.7
	データの活用	72.9	65.0	64.5
観点別	知識・技能	78.7	73.8	74.7
	思考・判断・表現	70.0	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

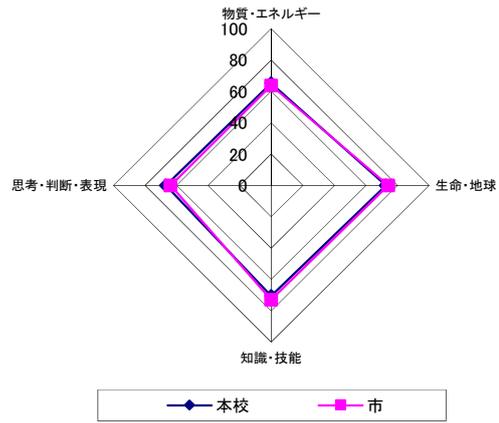
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○本領域の平均正答率は、76.8%で、市の平均正答率を4.7ポイント上回った。</p> <p>○「真分数÷整数(約分1回)の計算ができる。」の平均正答率は、80.6%で市の平均正答率を11.7ポイント上回った。</p> <p>●「小数の乗法の記事問題を表した図の構造をとらえている。」の平均正答率は87.1%で、市の平均正答率を1.4ポイント下回った。</p>	<p>・小数の乗法について、計算結果だけでなく、文章から図に表された数量の関係を読み取り、1あたりの量といくつ分の関係などを捉えて図をもとに立式する力を高めていく。</p> <p>・文章・図・式を対応させて考える活動を継続的に取り入れ、図の意味を言葉で説明する場を多く設定していく。</p>
図形	<p>○本領域の平均正答率は80.2%で、市の平均正答率を3.7ポイント上回った。</p> <p>○「平行四辺形の面積を求める式を理解している」の平均正答率は、86.0%で、市の平均正答率を10.8ポイント上回った。</p> <p>●「三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点を理解している」の平均正答率は、86.0%で、市の平均正答率を1.5ポイント下回った。</p>	<p>・角柱と円柱の単元において、見取図や展開図をかく活動を通して、頂点や辺、面などの位置関係や空間についての感覚を豊かにできるようにしていく。</p>
変化と関係	<p>○本領域の平均正答率は70.3%で、市の平均正答率を3.2ポイント上回った。</p> <p>○「単価が異なるものを1セットずつ買ったときの、ノート1冊あたりの値段を求めることができる」の平均正答率は、60.2%で、市の平均正答率を4.1ポイント上回った。</p> <p>○「基準量と割合から比較量を求めることができる」の平均正答率は、63.4%で、市の平均正答率を4.7ポイント上回った。</p>	<p>・単位量あたりの大きさや速さの単元において、数量関係に着目し、図や式を用いて説明したり、自分の考えをまとめたりする活動を引き続き取り入れる機会を増やしていく。</p>
データの活用	<p>○本領域の平均正答率は72.9%で、市の平均正答率を7.9ポイント上回った。</p> <p>○「ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録が多いわけではないことを説明する」の平均正答率は、48.4%で、市の平均正答率を12.9ポイント上回った。</p> <p>○「円グラフを正しく読み取ることができる」の平均正答率は、62.4%で市の平均正答率を5.7ポイント上回った。</p>	<p>・割合のグラフでは、社会科の授業などにおいて、様々なグラフから関係を読み取る活動を取り入れ、グラフを読み取る技能を高める。</p> <p>・データの見方では、平均値や中央値、最頻値などの代表値の意味を確認し、身近なデータを取り上げて学習を進めたり、自分の考えを説明する場面を設定したりする。</p>

# 宇都宮市立富士見小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.2	63.8	61.6
	生命・地球	72.6	74.1	73.3
観点別	知識・技能	70.6	73.0	71.3
	思考・判断・表現	66.8	63.8	62.5



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。

## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○本領域の平均正答率は65.2%で、市の正答率を1.4ポイント上回った。</p> <p>●「水に食塩を溶かしても、合計の重さが変わらないことを理解している」の平均正答率は、71.0%で、市の平均正答率を4.6ポイント下回った。</p> <p>○「ろ過のしかたで、正しくないところを指摘できる」の平均正答率は、71.0%で、市の平均正答率を7.9ポイント上回った。</p> <p>●「蒸発させたときに何も残らなかった水溶液には、気体が溶けていることを理解している」の平均正答率は、22.6%で、市の平均正答率を8.5ポイント下回った。</p> <p>○「うすい塩酸と炭酸水を見分ける実験について構想し、説明できる」の平均正答率は、61.3%で、市の平均正答率を10ポイント上回った。</p>	<p>・用語の意味を理解できるよう、適宜復習を行っていき、定着を図る。</p> <p>・根拠を基に仮説をしっかりと立てて実験を行うようにし、実験後は結果について検討し、説明ができるようにする。</p> <p>・市の正答率よりも下回っている問題内容は、「物のとけ方」と「水よう液の性質」が多いため、水溶液に関する内容を重点的に復習を行っていき、知識の定着を図る。</p>
生命・地球	<p>●本領域の平均正答率は72.6%で、市の正答率を1.5ポイント下回った。</p> <p>○「流れる水のはたらきについて、目的の結果を得るための実験の方法を構想し、説明できる」の平均正答率は69.9%で、市の平均正答率を10ポイント上回っている。</p> <p>○動物の体のつくりとはたらきで「仮説を確かめる実験を構想できる」の平均正答率は72.0%で、市の平均正答率を7.3ポイント上回っている。</p> <p>●「脈拍について理解している」の平均正答率は48.3%で、市の平均正答率を13.0ポイント下回っている。</p> <p>●「月の見える形が変わる理由を理解している」の平均正答率は71.0%で、市の平均正答率を10.9ポイント下回っている。</p>	<p>・対話的で、深い学びを実現するために、ペアや小グループでの話し合いや意見交換を積極的に取り入れ、実感を伴った理解が図れるようにしていく。</p> <p>・「植物のつくりとはたらき」では、ヨウ素液を使ったデンプン反応についての理解が浅かったり、植物が養分を作るために必要なことへの理解が不十分であったりすることから、復習の機会を設け、定着を図るようにしていく。</p> <p>・日頃から身近な自然への関心が高められるよう、地域素材や様々な教材を取り上げることを通して、児童の関心を高められるようにしていく。</p>

## 宇都宮市立富士見小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の学習時における漢字や計算練習の実施。</li> <li>・AI型学習ドリルを活用した、個に応じた基礎的・基本的知識・技能の定着</li> <li>・年に2回の家庭との連携を図った家庭学習強化週間の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生の学習内容定着度調査の結果では、国語・社会・算数における正答率は、知識・技能、思考・判断・表現共に市の正答率を上回っており、基礎の領域も市の正答率を上回っている。理科の基礎のみ、市の正答率を1.5ポイント下回った。</li> <li>・3年生以上の「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」の項目において、3年生以上すべての学年で肯定回答を下回った。</li> </ul>
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で問いがもてるような発問や学習活動の工夫</li> <li>・解決への見通しをもたせ、思考し、考えをまとめられるような時間の確保</li> <li>・自分の考えと友達の意見を比べながら聞いたり、そのうえで自分の考えを伝えたりできるような場の設定</li> <li>・「何を学んだのか」を実感させることのできる振り返りの工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分から進んで学習に取り組んでいる」に肯定的に回答した児童の割合は、1年生と6年生のみ市の値を上回っていたが、2～5年生は、市の肯定割合を下回るなど、学年によって差が見られた。</li> <li>・「話し合いに自分から進んで参加している」に肯定的に回答した児童の割合は、6年生が市の値を上回ったものの、1年生～5年生では、全体的に市の割合を下回っていた。</li> </ul>
・個に応じた指導の推進による学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心をもって取り組める学習課題の設定・教材の開発</li> <li>・児童のよさや努力したことに対する積極的な承認や称賛</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「勉強していて面白い、楽しいと思うことがある」に肯定的に回答した児童の割合は、77.7%～94.2%と学年によって差があった。</li> </ul>

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・教科に関する調査から、国語・社会・算数において、基礎的な知識や技能が身に付いている児童が多く、思考力についても育っていることが分かるが、理科の基礎的な知識や技能が市の正答率よりも低い結果であった。国語・算数のみでなく、様々な教科において家庭学習などを利用し、復習に力を入れる必要がある。また、学校全体として話し合いに進んで参加したり、根拠を挙げながら考えを話したりすることに対して、やや自信の持てない様子が見られる。次年度は、表現力の向上を目指し、授業の中で自分の考えをもち表現する時間を十分に確保していく。さらに、まとめや振り返りの際に自分の言葉で学習したことをまとめたり、1時間の学びを振り返ったりする活動を充実させていくことで、児童の表現力を伸ばしたい。

・学習に対する気持ちや態度については、学習に対して「面白い、楽しい」と感じており、それが確かな学力につながっていることがうかがえる。しかし、6年生以外の学年のアンケート結果は芳しくない。それを踏まえ、引き続き、個に応じた指導や教材や授業展開の工夫などを行うことにより、学習意欲の向上に努めたい。また「分かる授業」を目指し、教材研究等を充実させることで、児童にとって魅力のある授業づくりに努めていく。